

文部科学省 委託事業

新時代に対応した高等学校改革 推進事業（普通科改革支援事業）

第1年次 実施報告書



令和5年3月

長崎県立松浦高等学校

巻頭言

新しい普通科＝地域科学科とは？

長崎県立松浦高等学校 校長 舟越 裕

令和4年4月、文部科学省が進める普通科改革の中で、松浦高校には全国に先駆けて新しい普通科である「地域科学科」が設置されました。設置の背景として、大きく以下の2点が挙げられます。

- ①文科省が進める高等学校の「普通教育を主とする学科」の弾力化により、「高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科」（地域社会学科）の設置が可能となったこと
- ②平成29年度から始まった地域課題解決型学習「まつナビ」の充実を図るべく、大学等の研究機関、松浦市役所や地域の企業・団体等の支援により、3年間を通じた「まつナビ・プロジェクト」のカリキュラム開発や評価研究及びコンソーシアムとの協働に取り組んできたこと

があげられます。これらをふまえて、本研究指定事業においては、以下のⅠ～Ⅲの研究開発を進めていき、生徒の多様な資質・能力の育成を図っていくことになりました。

- Ⅰ 育成を目指す「資質・能力」に基づき、教科等を横断する学びを含む、生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムを中心とした、中学校と高等学校の学びの連携・交流及び高等学校と大学・企業等の連携による、SDGsを踏まえた地域課題解決型探究活動及びキャリア形成力の涵養活動を組織的に支援する体制の構築・運営の充実
- Ⅲ 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制・運営の研究開発

この1年間、学校が大学・地域等と連携を図りながら、生徒の学びを深められるように実践に取り組んできました。その結果、本冊子にも掲載していますが、様々な成果を得ることができました。

一方で、短い準備期間の中で新学科を立ち上げたため、中学校や地域へ説明不足を原因の1つとする生徒募集での苦戦という課題があります。さらに、「地域科学科とは何か」、「従来の普通科との違いは何か」という点について、校内での目線合わせが十分にできていないまま新学科がスタートしたため、新学科の軸、つまり研究の軸が不明確となってしまったという課題があります。

ただ幸いにも、コンソーシアムにはしっかりとご支援いただいております、またコーディネーターの取り組みにより地域における本校の教育活動への理解も広がっています。そうしたメリットを存分に生かしながら、今後は「地域を科学する」教育活動が展開できるよう、研究開発に取り組んでいきたいと考えています。さらに研究開発を通じて、生徒の学びを深めるとともに、学び続けようというマインドセットが学校全体に浸透することを目指していきたく考えています。

本冊子をご覧いただいた皆さま方には、ぜひ本校の取り組みに対して忌憚のないご意見をいただければ幸甚に存じます。今後も松浦高校への御理解と御支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます、巻頭の言葉といたします。

＝新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）目次＝

巻頭言

第1章 事業の概要

1 本校の概要	1
1-1 所在地	1
1-2 設定課程および在籍生徒数	1
1-3 学校経営方針	1
1-4 令和4年度グランドデザイン	4
2 事業構想（ビジュアル資料）	5
3 令和4年度実施計画の概要	6
3-1 3ヶ年の実施計画の概要	6
3-2 令和4年度の計画の内容	7
3-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画	9
3-4 成果の普及のための計画	10
3-5 管理機関の役割と実施計画	10
4 先進的な教育の取組の概要	12
4-1 実施計画の概要	12
5 地域科学科	13
5-1 設置の目的	13
5-2 令和4年度における活動の重点項目	15
5-3 先進的な教育の取組～まっナビ・プロジェクト～	17

第2章 事業の内容（実施計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

1 実施計画Ⅰ	19
1-1 活動目標	19
1-2 実施計画	19
1-3 活動実績	19
2 実施計画Ⅱ	31
2-1 活動目標	31
2-2 実施計画	31

2-3	運営指導委員会	31
2-4	コンソーシアム会議	32
2-5	松浦市、長崎大学、長崎県立大学をはじめとする学校外の組織等との協働	34
2-6	コーディネーター活動内容	36
2-7	新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績	38
2-8	国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組	39
2-9	他の事業との関係	40
3	実施計画Ⅲ	41
3-1	活動目標	41
3-2	実施計画	41
3-3	活動内容	41
第3章 管理機関の役割		
1-1	管理機関による活動実績	42
第4章 事業検証と次年度に向けて		
1-1	今年度の目標設定についての検証	44
1-2	次年度に向けて（課題改善の方向性）	47
参考資料		49

第1章 事業の概要

1. 本校の概要

1-1 所在地

〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免738-1

1-2 設定課程および在籍生徒数（令和5年3月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科	—	48	58	106
地域科学科	29	—	—	29
商業科	24	26	33	83
合計	53	74	91	218

1-3 学校経営方針

1 校訓

「自己開拓」に全力を注ごう 正しい人間関係をきずいていこう よき市民性を身につけよう

2 スクールミッション（教育方針）

<どのような生徒を育成するのか：社会的役割>

校訓「自己開拓」の精神のもと、基礎学力を高め、主体的に考え粘り強く行動できる人材を育成します。また、持続可能な地域や社会の担い手として、豊かな人間性や協働性を備えた人材を育成します。

<どのような教育を目指すのか：教育理念>

不断の授業改善に基づき、学力をはじめとする生徒一人ひとりの多様な資質・能力の育成を目指します。また、生徒一人ひとりの進路実現を図るため、地域・大学等との協働による探究的な学びや、部活動をはじめとする様々な活動を通して、キャリア形成力や人間力を高める教育を目指します。

<学校の特色、強み、魅力（独自の教育）等：今後の方向性>

全国初の新しい普通科を設置した松浦市唯一の高等学校として、地域社会のニーズや生徒一人ひとりの進路希望に応えられる多様な教育活動の展開を図ります。また、文部科学省研究指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」および「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の成果を生かし、地域・大学等との協働や県内外の高校との連携による探究的な学びの一層の充実を図ります。

3 スクールポリシー

【育成を目指す資質・能力に関する方針】（グラデュエーションポリシー）

- 将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間を育成する（キャリア形成力）
- 社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた人間を育成する（責任言動力）
- 地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間を育成する（ふるさと貢献力）

【教育課程の編成及び実施に関する方針】（カリキュラムポリシー・学びの方針）

- 将来の目標を実現させるため、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善及びICTの積極的な利活用を推進する
- キャリア形成力の育成のため、「ルーブリック」を活用して学習活動を振り返り（自己評価）、「ポートフォリオ」への記録により学びの自己調整を図る取組を充実する。
- これからの社会を生き抜くために必要な課題解決能力や協働性、ふるさとを大切にする姿勢などを育成するため、「まつナビ・プロジェクト」や授業での探究学習を充実する

【入学者受け入れに関する方針】（アドミッションポリシー・求める生徒像）

- 高い志や将来の目標を持ち、その実現に向けて取り組もうという意欲が高い生徒
- 高校生活（学習、部活動、学校行事等）に積極的に取り組み、他者と協力して行動しようという意欲が高い生徒
- 地域や社会の課題解決に貢献したいという意欲が高い生徒

4 重点目標

（1）学びあう学校づくり（授業の充実・進路希望の実現）

- ①平素からの授業改善により、生徒が主体的に学びに向かうような姿勢を育成する。
- ②授業の充実や一人一台端末の活用等を通じて、知識・理解など基礎基本の徹底を図るとともに、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ③ルーブリックを積極的に活用した観点別評価の実施やポートフォリオの活用等により、生徒の資質・能力を多面的に評価するとともに、生徒の自己肯定感を高める。
- ④入試情報・就職情報の収集・分析・発信に取り組み、生徒個々のキャリアプランニングによる進路希望の実現を図る。

（2）支えあう学校づくり（生徒指導の充実と教育相談の推進）

- ①生徒の人権に配慮し、支援や配慮が必要な生徒には柔軟に対応し、全教職員で情報共有を図るとともに、関係機関と速やかに連携をとりながら、支援・指導にあたる。
- ②自他の命、健康・安全を守ることを最優先とし、相手への思いやりのある言動を心がけさせることなどによる、責任感をもって行動できるなどの「品性」を育成する。

(3) 伸ばしあう学校づくり（生徒が主役の活動及び「キラリ」と光る部活動の推進）

- ①学校行事、学級活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して、生徒の自主性、積極性、協働性を養う。
- ②各部活動で設定した目標の実現を目指すとともに、生徒の「人間力」を伸ばす活動を推進する。

(4) 「まっナビ・プロジェクト」（生徒の「資質・能力」の育成）の充実

- ①文部科学省研究指定事業を軸として、地域・大学等と連携して「まっナビ・プロジェクト」の充実を図り、未来の地域の担い手となる人間を育成する。
- ②生徒の「自分事」としての課題研究活動と各教育活動の連携を図り、課題解決能力をはじめとする多様な資質・能力を育成し、生徒のキャリア形成を図る。
- ③普通科改革の先駆的な取り組みを県内外に発信し、「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築を進めるための体制・運営の研究を進める。

(5) 中学校・地域社会・保護者との連携

- ①学校ホームページ、学校だより、保護者へのメール配信などを通じて、学校から最新情報を発信し、本校への理解を促進する。
- ②学校説明会やオープンスクールを含めた広報体制の改善により生徒募集活動の充実を図り、志願者の増加を図る。

(6) 教職員の「ワーク・ライフ・バランス」の推進

- ① 教員間の協働性を高め、持続的な教育活動が展開できる職場環境づくりを推進する。

○グランドデザインを起点とした、カリキュラム・マネジメントの推進

- ・「育成を目指す人物像」及び教育活動目標「支えあい、伸ばしあう学びの推進」、「一人ひとりの進路希望の実現」を踏まえた、各教育活動の「充実」と「見える化」の推進

○進路指導とまっナビ・プロジェクトとの関連を強める等、生徒のキャリア形成を組織的に支援

○「まっナビ・プロジェクト」コンソーシアムとの連携などによる、発信力の強化

不断の授業改善を通して教科学習の充実を図るとともに、松浦市唯一の県立高校として、地域や大学等との協働による学びの充実を通して、地域や社会のリーダーとして活躍できる能力を身に付けた人間の育成を目指します。

地域や社会の課題解決に貢献できる人間の育成を目指します。

1-4 令和4年度グランドデザイン

令和4年度の松浦高校のグランドデザインは以下のとおりである。将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間になるための「キャリア形成力」、社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた人間になるための「責任言動力」、地域や社会の課題解決や発展に貢献しようとする意欲を持つ人間になるための「ふるさと貢献力」といった力を身に付けた生徒を育てる。この実現のために、生徒が「主役」の活動や「責任ある言動」を伸ばす活動、キャリアプランに応じた学び、まつナビ・プロジェクトそして、松高キャリアプランニングといった学びの充実を図っていく。

令和4年度 松浦高校グランドデザイン

“シン化する”学舎 ～学びを“深”める 力を“伸”ばす “進”路実現を図る～

このような力を身に付けた生徒を育てます

- キャリア形成力
将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間
- 責任言動力
社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた人間
- ふるさと貢献力
地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間

このような学びの充実を図ります

生徒が「主役」の活動

- 生徒会が中心となった行事の企画・運営
- ボランティア活動などの生徒の自発的な活動の充実

松高キャリアプランニング

- 「自分の将来」について考え、決断し、実践する
- 「ルーブリック」・「ポートフォリオ」等を活用した活動の振り返りとキャリアプランの作成
- 地元企業や大学と連携した探究活動

キャリアプランに応じた学び（不断の授業改善）

- 一人一人を大切に授業
- ICTの有効活用
- 授業と「まつナビ」との関連を深め、「課題分析・解決能力」等を伸ばす授業

「責任ある言動」を伸ばす活動

- 生徒が「支え合い学び合う」学びの推進
- 各部活動で設定した「目標」に基づく活動

まつナビ・プロジェクト

- 地域の未来を考察、発表、実践する探究学習
- 松浦市役所・大学等の学校外の組織等との協働

文科省研究指定

松浦市から様々な学びの支援を受けています

補習費・模擬試験費・検定費・航路通学費・部活動強化費・まつナビ支援等

生徒一人一人の進路実現を図ります

- 地域科学科・普通科
国公立大学・私立大学
各種専門学校

- 商業科
国公立大学・私立大学（商業科枠）
各種専門学校、市内外の優良企業

【長崎県立松浦高等学校】地域科学科（地域社会学科）（令和4年度設置）

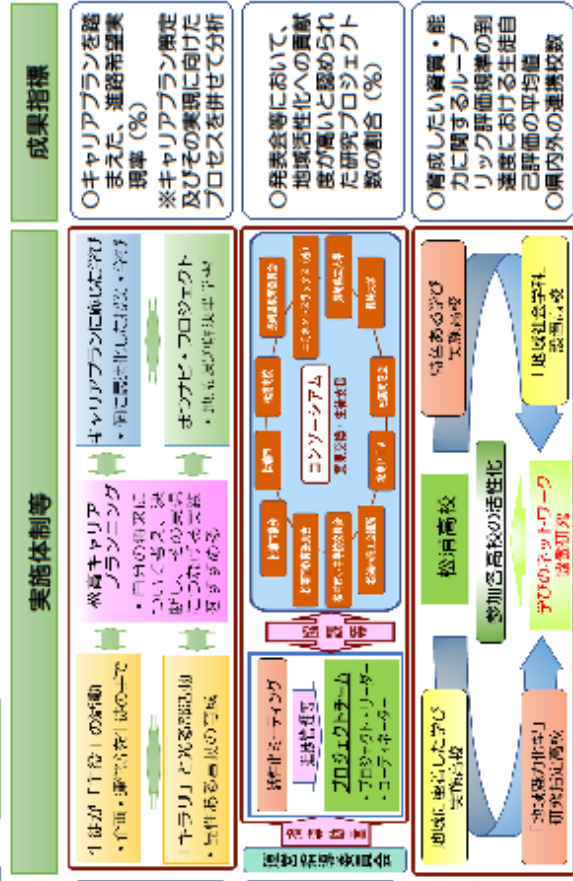
目的	地域社会の未来を担うリーダーの育成 ～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～		
目標	I 生徒個々のキャリアプランに基づき進路希望の実現 II 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献 III 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化		
実施計画（内容・方法・体制等）	実施内容	実施方法等	
	計画Ⅰ 生徒の自己有感を高め、教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発	育成を目指す資質・能力を生徒が獲得するため、各教育活動の充実と学習評価（ルーブリック評価規準）の活用を一体として進める	
	計画Ⅱ 地域及び学校活性化を図る教育活動等への支援体制（コンソーシアム等）の構築・充実	まつナビ・プロジェクト（地域課題解決型学習）での探究活動及び地域の中学生・高校生とのキャリア形成力育成を図る活動への支援の充実を図る	
計画Ⅲ 県内外の「地域に根ざした高校」のネットワークの構築と協働による、参加各校の活性化	目指す資質・能力の獲得に向けた生徒の意欲を高めるため、県内外の「地域における学び」を推進している高校との連携・協働研究等をすすめる		
3ヶ年の実施計画	令和4年度	令和5年度	令和6年度
計画Ⅰ	各教育活動ルーブリック評価規準作成・実践・改善	キャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価規準の検証・改善、各教育活動への反映	1回生のキャリアプラン実現に向けたプロセスの検証等による総括、次年度以降の計画策定
計画Ⅱ	中高・高大連携の推進とその効果等の検証に基づき連携体制の在り方を改善	前年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動等への支援の検証・改善	地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定
計画Ⅲ	「地域高校」ネットワークの構築・交流開始	「地域高校」ネットワーク参加校における協働活動の推進	「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定

育成を目指す資質・能力

実施計画に基づき、次の①～⑥の資質・能力の育成を図る

I キャリア形成力（目標の実現に向けて努力を続ける力）
 ①キャリア・プランニング力 ②自ら学び、行動する力
 ③課題分析・解決能力 ④コミュニケーション力

II 責任言動力（⑤責任感と品性ある言動）
 III ふるさと貢献力（⑥ふるさとへの貢献意欲）



成果指標

○キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率 (%)
 ※キャリアプラン策定及びその実現に向けたプロセスを併せて分析

○発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合 (%)

○育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準の到達率における生徒自己評価の平均値

○県内外の連携校数

3. 令和4年度実施計画の概要

3-1 3ヶ年の実施計画の概要

地域科学科（地域社会学科）における令和4～6年度の取組の実効性を高めるため、取組の目的・目標及び教育活動を通じて生徒が獲得することを旨とする「資質・能力」を踏まえ、次のⅠ～Ⅲの実施計画及び各年度における実施計画を策定。

(1) 実施計画

- Ⅰ 育成を目指す「資質・能力」に基づき、教科等を横断する学びを含む、生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムを中心とした、中学校と高等学校の学びの連携・交流及び高等学校と大学・企業等の連携による、SDGsを踏まえた地域課題解決型探究活動及びキャリア形成力の涵養活動を組織的に支援する体制の構築・運営の充実
- Ⅲ 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制・運営の研究開発

(2) 各年度における実施計画

○令和4年度

- 計画Ⅰ 各教育活動ルーブリック評価規準作成・実践・改善
- 計画Ⅱ 中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携・協力体制の在り方を含む改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの構築・交流の開始

○令和5年度

- 計画Ⅰ 生徒のキャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価規準の検証・改善及び各教育活動への反映
- 計画Ⅱ 令和4年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動等への支援の検証・改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワーク参加校における生徒間の協働活動の推進、教員間の情報共有

○令和6年度

- 計画Ⅰ 地域科学科1回生のキャリアプランの実現に向けたプロセスの検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅱ 地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定

3-2 令和4年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○「資質・能力」を獲得するために、ルーブリック評価規準を用いたポートフォリオへの記録と運用開始 ○商業科との連携による教科横断的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○学びアドバイザーと本校プロジェクトチーム教職員による、全教育活動におけるルーブリック評価規準の作成開始
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自ら学び、行動する力を身に付けるために、KJ法を用いたワークショップの実施 ○各部活動で設定した目標に基づき、責任言動力の向上に向けた活動を進めるために、高校総合体育大会長崎県大会に参加 ○キャリアプランの実現に向けて、生徒の各専門領域への興味関心を高め、進路意識の向上を図るために、進路講演会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図るため、第1回コンソーシアム会議を、また、今年度の実践活動について指導助言を行う第1回運営指導委員会の実施 ○進学や就職といった幅広い進路について学びつつ、地域との協働による活性化を図るために高大連携講座を実施 ○これまでの高校間交流をもとに、「地域高校」ネットワーク構築に向けた連絡・調整を開始
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとへの貢献意欲を高めるために、松浦市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行う、生徒が企画したバスツアーを実施 ○将来的に松浦市を担うふるさと貢献力と課題分析・解決能力を高めるために、生徒が松浦市未来会議へ参加（教職員も参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の探究活動において、深い学びを実現するために行うバスツアーについて、松浦市やコンソーシアム等と企画・調整を実施 ○地域や学校の活性化について考え、生徒の自己有能感を高めるために、県内の高校による「長崎を元気にするアイデアコンテスト」（県主催）協議会に参加
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○紛争を解決し、平和な状態を維持することの大切さを生徒自らが学び、行動する力を身に付けるために、8月9日平和学習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校との学びの連携・交流を進めるために、本校オープンスクールを開催

9 月	<ul style="list-style-type: none"> ○上級生等とのコミュニケーション力や責任行動力を高めるために、体育祭を実施 ○ICTを有効活用し、キャリア・プランニング力を高め、進路希望の実現につなげる職業調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校のグランドデザインやスクールミッション・ポリシー等の周知、募集活動及び中学校と高等学校の学びの連携・交流を進めるために、中学生向け説明会を実施
1 0 月	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション力や課題分析・解決能力を身につけるために、バスツアー報告会を実施 ○クラスや部活動等が一体となり、生徒の自己有能感を高めつつ責任行動力を身に付けるために文化祭を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○バスツアー報告会において、今後の研究活動の検証・改善を図るために県内外「地域高校」ネットワークによる意見交換会を実施
1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の未来を担う人材育成を図りつつ、ふるさとへの貢献意欲を高めるために、「地域の達人」による人生の達人セミナーを実施 ○教科等の横断的な学びを進めるとともに、課題分析・解決能力の基礎的な力を身に付けることを目指した公開授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内外の「地域における学び」を推進している高校と本校ファシリテーター等でネットワークを構築するために、地域のコーディネーター等による連携・協働研究ミーティングを実施
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の職業選択につながる生徒のキャリアプランニング力を高め、自ら学び、行動する力を身に付けるために、職業講話を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム等と生徒が次年度実施する課題研究活動のテーマの設定に向けて、コンソーシアムの構成事業所等と連絡・調整を実施
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ○課題発見・テーマ設定力といった課題分析・解決能力を身に付けるために、地域の未来を考察し、発表、実践する次年度実施の課題研究活動テーマ設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内外の「地域高校」ネットワークを活用し、学校活性化につながる、生徒の学習意欲を高めるオンライン交流会を実施
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ○課題研究活動の実践活動の手法等を学びつつ、コミュニケーション力等を高めるために、2年生の課題研究発表会を参観 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との協働による活性化を図るために、生徒の多様な課題研究に応じた、コンソーシアムとの連携・協力体制について調整を図る

3 月	○生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望実現のために、ポートフォリオを用いて、1年間の活動の振り返りを実施	○年間を通した課題研究活動の検証を行い、次年度の計画立案を行うために、コンソーシアム会議を実施 ○年間を通した事業の検証及び指導助言を行うために、運営指導委員会を実施
--------	--	--

3-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画

地域科学科における事業の進捗を管理するとともに、計画Ⅰ～Ⅲを中心に進める事業の質的な向上を図るため、PDCAサイクルに基づく組織マネジメントを校内外の組織をつなげて推進する。その際、成果指標（アウトカム）設定の考え方等に基づき、事業の成果と課題を検証する。

(1) 定期的な確認や改善を図る組織及びその活動内容

①地域科学科・活性化ミーティング（プロジェクトチーム）

- ・成果目標を踏まえて、研究開発の進捗管理を行い、計画・方法等の改善を図る。

②コンソーシアム会議

- ・定期的なコンソーシアム会議における、松浦高校との連携の内容・方法等に関する意見等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

③運営指導委員会による検証・改善

- ・定期的な運営指導委員会による、成果目標を踏まえた事業の検証及び指導助言等により、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

(2) 成果指標（アウトカム）設定の考え方

①計画Ⅰにおける成果指標

- ・生徒個々のキャリアプランを踏まえた、進路希望の実現率（％）

②計画Ⅱにおける成果指標

- ・課題研究発表会等において、審査員等から地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

③計画Ⅲにおける成果指標

- ・育成したい資質・能力（課題分析・解決能力、コミュニケーション力、ふるさと貢献力）に関するルーブリック評価規準の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

(3) その他

①生徒、保護者、教職員等アンケートの実施

- ・地域科学科の取組に関する理解度、満足度等のアンケート調査の結果分析に基づき、事業計画の改善を図る。

3-4 成果の普及のための計画

次の(1)～(3)により、成果の普及を図る。

(1) 小・中学校及び地域等への成果普及

- ①松浦高校のWebページ上に専用のカテゴリを作成し、以下の生徒の活動状況を随時更新する。
- ②松浦高校の生徒が、小・中学校を訪問し、児童・生徒向けに課題研究の成果を発表する。

(2) 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の成果共有・成果普及

- ①互いの活動や成果を共有し、協働することによって生じる各種の成果をそれぞれの学校が発信し、全国レベルでの普及につなげる。

(3) 教員向けの成果共有・成果普及

- ①実践報告発表会等において地域への貢献度が高いと認められる生徒のプロジェクトを共有するため、Webへの掲載・配信や関係各校への報告書等の送付により、広く情報発信を行う。

3-5 管理機関の役割と実施計画

(1) 実施体制における実施体制や事業の管理方法

本事業の管理・指導・支援は、長崎県教育庁総務課県立学校改革推進室及び高校教育課が行うこととする。

- ①管理機関は、本事業の運営に関して指導助言に当たる運営指導委員会を設置するとともに、地域課題解決型学習を組織的に支援するコンソーシアムとの連携協力体制を整備する。また、その連携協力が円滑に行われるよう、連絡調整を担うコーディネーターを松浦高校に配置する等、取組の支援を行う。

・運営指導委員会は、学識経験者や行政職員等、専門的見地から指導助言に当たる第三者により組織し、事業の目的・目標を踏まえた地域科学科の研究内容について客観的に検証及び指導助言を行う。

・コンソーシアムは、松浦市、大学、地元企業・経済団体、小・中学校等、豊富な実践と高い見識を持つ方々により構成し、幅広い視点から専門的な指導と助言を受けられる体制を築く。

・コーディネーターには、管理機関、松浦高校、コンソーシアムと将来の地域ビジョン・求める人材像等を共有でき、地域の実情や魅力・課題に深い見識を有する方を指名する。

- ②管理機関は、運営指導委員会と連携しながら、定期的に松浦高校を訪問し、教育課程編成、学校設定科目、カリキュラム・マネジメント、ルーブリック評価規準及び授業改善への指導助言等を行うとともに、コンソーシアムの更なる充実や、「地域に根ざした高等学校」ネットワーク構築に向けて必要な支援を行う。そして、進捗状況を把

握した上で事業全体を管理し、事業の検証・改善への提案を行う。

- ③地元松浦市や松浦高校と連携しながら各種メディア等における広報活動を行い、新学科における教育活動や「資質・能力」について、中学生、保護者、地域住民への周知及び理解促進を図る。また、松浦高校を普通科改革のモデルケースとして、実践報告発表会等を通して他校への普及を図る。

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

管理機関は、松浦高校、コンソーシアム会議及び運営指導委員会と連携し、事業全体の成果検証及び評価を行う。

①松浦高校と連携した検証・評価

- ・生徒の目標達成度合いについて、管理機関、学びアドバイザー等により評価を行い、取組の成果を検証する。検証した結果は、運営指導委員会に報告する。
- ・広報活動により、地元中学生や保護者に対して、地域科学科の設置目的や、「資質・能力」についての理解促進が図られたかどうかを検証する。

②コンソーシアム会議と連携した検証・評価

- ・探究活動への研究支援及び生徒のキャリア形成への支援の充実に向けた取組の検証及び評価を行う。

③運営指導委員会と連携した検証・評価

- ・コンソーシアム会議等から報告された検証結果も踏まえ、事業全体の成果検証及び評価を行う。
- ・成果検証及び評価の結果について、コンソーシアム会議等に対してフィードバックを行う。
- ・定期的な運営指導委員会による事業の検証及び指導助言等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討し、以後の計画等に反映させるとともに、次回会議でその内容を報告する。

4. 先進的な教育の取組の概要

4-1 実施計画の概要

(1) 松浦高校普通科（令和3年度まで）の特色

- ①松浦高校は、長崎県松浦市内にある唯一の高等学校であり、普通科・商業科の併設校である。
- ②入学者の減少を受けて、平成25年度から、松浦市による、松浦高校の生徒を対象とした就学支援制度が創設された。また、翌26年度には、それまでの普通科に加えて、中学生の多様な進路希望への対応を図るため商業科が併設され、普通科2クラス（定員80名）、商業科1クラス（定員40名）となった。

(2) 地域科学科の導入

- ①令和3年6月に策定した「長崎県立高等学校教育改革第9次実施計画」により、松浦高校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む地域科学科（地域社会学科）を、令和4年4月から普通科にかえて導入する。

(3) 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～

- ①平成29年度から、松浦市と協働して、ふるさとを大切にする姿勢を身に付けることを目指して、松浦高校2年生が地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動～「まつナビ」～が開始された。
- ②令和元年度までの3年間で取り組んだ「まつナビ」を進化させた新たな地域課題解決型学習が「まつナビ・プロジェクト」であり、令和2年度から令和4年度まで文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）の研究指定校となった。
- ③「まつナビ・プロジェクト」

松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた高等学校2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、3年間の連続性のある探究学習に進化させたもの。生徒の課題解決能力を高めること等を目指して次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し研究開発を実施する。

- Ⅰ 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高等学校3年間の地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

5. 地域科学科

5-1 設置の目的

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

①松浦高校を取り巻く状況

- ・長崎県は若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。そのため県内の多くの地域において、高等学校と地元自治体等が協働して地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、今後その取組をさらに充実させるため、学校間の活動の連携を深めるネットワークづくりを進めることが求められている。
- ・松浦高校は、令和3年度に60周年を迎えた松浦市内にある唯一の高等学校（普通科・商業科設置）であり、地域社会の未来を担う人材の育成が期待されている。
- ・松浦市からは、就学支援制度の創設（平成25年度～）、地域課題解決型学習「まつナビ」への支援（平成29年度～）、文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究開発（令和2年度～）において、多角的な支援が行われている。
- ・市内中学校の保護者を含む地域の方々からは、自ら学ぶ姿勢を身に付け、基礎学力を高めることで生徒一人ひとりの進路希望の実現を図ることが求められている。特に大学進学に向けた教育活動の充実を望む声が強い。また、生徒一人ひとりの責任ある言動ができるなどの「人間力」の育成や県内外の高校生との交流を深めたり、部活動の活性化を進めたりすることによる、「活力ある」学校づくりが求められている。

②地域科学科を設置する必要性

- ・松浦高校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む学科を設置する。
- ・県内の「地域に根ざした高等学校」の先行モデルとして導入し、取組の成果の普及を図る。
- ・地域科学科においては、前述の内容を踏まえ、以下の①～③の取組の推進が必要である。

① 生徒個々のキャリアプランの作成をすすめ、そのプランに基づく進路希望の実現

② 松浦高校と近隣の中学校及び大学等との協働による地域活性化への貢献

③ 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による参加高等学校の活性化

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

①目的 地域社会の未来を担うリーダーの育成

～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

②目標

- ① 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- ② 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- ③ 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による学校活性化

③育成を目指す人物像及び育成を目指す資質・能力（以下、「資質・能力」。①～④）

- ① 将来の目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物（キャリア形成力）
 - ①「働くこと」に関する情報の取捨選択を含むキャリアプランニング力
 - ②自ら学び、行動する力
 - ③課題分析・解決能力（課題発見、データ分析、論理的考察、計画性等）
 - ④コミュニケーション力（傾聴・対話・プレゼンテーション）
- ② 責任感があり、相手を思いやる言動ができるなど、品性を備えた人物（③責任言動力）
- ③ ふるさとを大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物（④ふるさと貢献力）

④地域科学科における教育（概要）

「資質・能力」をもとに、次の①～⑤の教育活動の関連性を強める。また、各教育活動のルーブリック評価規準を明示し、生徒が各教育活動における取組の自己評価を行い、その改善を図ることができるようにする（指導と評価の一体化の推進）。

- ① 松高キャリア・プランニング
- ② まつナビ・プロジェクト（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）
- ③ 一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実
- ④ 生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動（生徒会活動、ボランティア等）
- ⑤ 生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動（部活動等）

⑤「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」と並行した取組について

- ・上記「②目標①」では、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究開発単位Ⅰにおける「カリキュラムの研究開発」をさらに進め、育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための指導と評価を一体的に行うカリキュラム開発を推進する。
- ・上記「②目標②」では、コンソーシアムにも入る長崎大学・長崎県立大学等との連携（大学生との交流も含む）により生徒の学びの充実を図る。また、コーディネーターの設置により松浦市内の中学校との連携も強化し、中学校の「ふるさと教育」

- と「まつナビ・プロジェクト」をつなげる中高連携により教育活動の充実を図る。
- ・上記「②目標3」では、普通科改革に取り組んでいる県内外の高等学校とのネットワーク構築を進め、連携校間の研究開発の共有による教員の資質・能力の向上及び生徒間交流による生徒の資質・能力の向上に取り組んでいく。

5-2 令和4年度における活動の重点項目

(1) 主な教育活動

①松高キャリア・プランニング

- ・「自分の将来」について考え、決断し、その実現に向けた実践につなげる教育活動
- ・ルーブリック評価規準を活用した各教育活動における定期的な自己評価(振り返り)と「松高ポートフォリオ」への記録・検証・取組の改善

②まつナビ・プロジェクト(「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む)

- ・地域課題解決型学習により、「課題分析・解決能力」、「ふるさとを大切にする姿勢」を育成
- ・松浦市、長崎大学、長崎県立大学をはじめとする学校外の組織等との協働
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

③一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実

- ・生徒一人ひとりのキャリアプランを踏まえ、ICTを有効に利活用した、主体的で対話的な深い学びの推進
- ・まつナビ・プロジェクトとの関連を深めることなどによって「課題分析・解決能力」等を伸ばす学びの推進

④生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動の推進

- ・生徒会が中心となった行事等の企画・運営
- ・特別活動などにおける生徒の自発的な活動の充実

⑤生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動

- ・特別活動等における、生徒相互が「支え合い、伸ばしあう学び」の推進
- ・各部活動で設定した目標に基づく、「人間力」向上に向けた活動の推進

⑥商業科との連携による教科横断的な取組

地域科学科での学びを深めつつ、地域課題解決型学習を進める上で必要な課題分析・解決能力等のさらなる向上を図るために、商業科の「情報処理」や「マーケティング」等の授業内容の一部を、地域科学科の総合的な探究の時間及び学校設定科目等に取り入れるなど、教科横断的な取組によるカリキュラムの研究・開発を行う。

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

①連携・協力体制構築の考え方

「資質・能力」の育成を図るため、コンソーシアムを中心に、まつナビ・プロジェクト（地域課題探究）での探究活動及び地域の中学生・高校生のキャリア形成力育成を図る活動をはじめとする取組への支援の充実を図る。また、生徒の多様な探究活動等に対応するため、助言等が可能となる団体・人物に支援を依頼するなどして、協力体制の強化を図る。

②連携・協力体制構築における重点項目

【令和4年度】

- ・ふるさと学習を起点とした中高協働学習や、高等学校、大学及び地元企業等の連携（以下、「高大職連携」。）によるSDGsを踏まえたまつナビ・プロジェクトの探究活動及び中・高校生のキャリア形成力育成活動への支援の充実を図る。
- ・コンソーシアムによる効果検証等に基づき、校内の「地域科学科・活性化ミーティング」に「学びアドバイザー」や関係機関の担当者に定期的に参加してもらい、持続可能な組織の在り方を含む連携・協力体制の改善を図る。

【令和5年度】

- ・令和4年度の検証等を踏まえて、連携・協力体制の充実と生徒の探究活動へのより効果的な支援を進めるとともに、検証をさらに進め、連携・協力体制の改善を図る。

【令和6年度】

- ・地域・学校活性化に向けた中高・高大職連携をはじめとする松浦高校と参加組織等との3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の連携・協力体制等の進め方について検討する。

5-3 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～

(1) まつナビ・プロジェクトとは

平成25年度、松浦市内唯一の高校である松浦高校への入学者の減少などもあって、松浦市による、松浦高校の生徒を対象とした就学支援制度が創設された。当時は2年生全員を複数の研究班に分け、松浦市役所職員が班毎のファシリテーターとなり、学年担当教職員とチームを組んで生徒の課題研究を支援する体制で始められた。平成29年度からは、松浦市と松浦高校が協働して、学校の魅力を高めことなどを旨とした、地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動が始められた。これが「まつナビ」である。

令和2年度からは3年間を見通したカリキュラムに変更した。また、同年度から令和4年度までの3年間、文科省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定校となった。

さらに、令和4年度4月より普通科は、新しい普通科である「地域科学科」が開設されると同時に文科省2つ目の委託事業である、「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の研究指定校となり、令和4年度については、文部科学省の2つの事業の指定を受けることになった。

松浦高校の学校改革の動き

H25	●生徒数の減少により普通科が1学年4学級（定員160名）から3学級（定員120名）となる ●松浦市による就学支援制度開始
H26	●商業科を新設し、普通科2学級・商業科1学級となる（定員120名）
H29	●地域課題解決学習「まつナビ」スタート
R 2	●文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究指定（～R 4年度） ●「まつナビ・プロジェクト」スタート
R 4	●普通科を地域科学科に改編

(2) 年間実施内容

以下の表は、本事業対象の地域科学科1年生におけるまつナビ・プロジェクトの年間実施内容である。

(表中の数字は実施回数である。)

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	①教科横断型と地域連携の授業づくり							1	1	1			
	②課題研究活動に必要な知識・技能習得	1	2	3	1		1	1					
	③研究テーマ設定							1	3	3	2	2	2

①教科横断型と地域連携の授業づくり (10月～12月)

②地域課題研究のための知識の習得 (4月～7月、9月、10月)

③バスツアー (5月～9月)

(ア) 事前調査

(イ) バスツアー準備

(ウ) バスツアー実施

(エ) バスツアー報告会

④研究テーマ設定 (10月～3月)

(ア) フィールドワーク (志佐んぼ)

(イ) 地域伝統行事 (淀姫神社の神事「流鏝馬」見学)

(ウ) 市役所各課からの現状説明会 (ブース形式説明会)

(エ) フレームワーク (ロジックツリー) 学習

(オ) 個人テーマ設定

(a) テーマ設定の導入

(b) 個人テーマ設定・発表

(c) 課題研究構想発表会

* 実際に活動については、「第2章」で説明する。

第2章 事業の内容（実施計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

1. 実施計画Ⅰ

1-1 活動目標

生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現

1-2 実施計画

生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発

1-3 活動実績

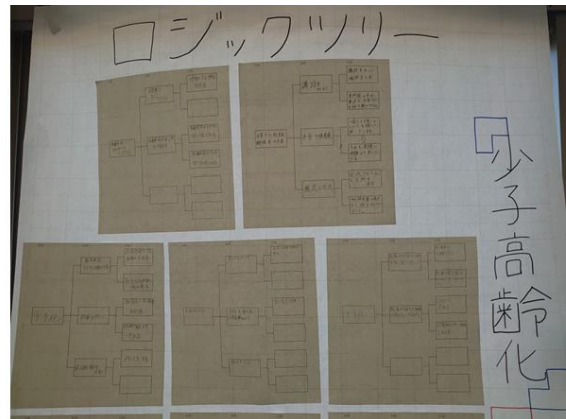
(1) カリキュラムの検討

松高キャリア・プランニング

- ・「自分の将来」について考え、決断し、その実現に向けた実践につなげる教育活動

【成果】

- ・地域課題の解決に向けて「自分ごと」として研究活動を進め、課題発見力・テーマ設定力等を身につけるために、これまでの学習を参考としてファシリテーター（教員）の支援を受けながらテーマ設定を行った。



■ 課題研究テーマ設定に向けての活動例

- ・これまでの活動を参考にしながら個人のテーマを設定し、発表会を行った。



■ 個人テーマ発表会

■発表スライド例

癒しのお菓子開発

実践内容
 地域のお菓子屋さんと「一口食べると幸せになれる」ような癒されるお菓子を
 を開発する。開発したら、SNSで宣伝したり、駅などにポスターを掲示させて
 もらったりする。

設定理由
 今松浦にいる、仕事や勉強で疲れている人たちが、癒されて、気分をリフレッシュ
 できるようなお菓子を作りたいと思ったから。

活動の最終目標
 お菓子をつくって販売。
 松浦に住んでいる人に美味しいものを食べて、心も健康になってもらう。

*その後、班編成を行い、3月17日（水）に、長崎県立大学の学生をアドバイザーとして、課題研究構想発表会を実施した。

■課題研究構想発表会テーマ一覧

順	班	地域課題テーマ	タイトル
1	6	少子化	子育てお助け倶楽部
2	8	ゴミ環境問題	ゴミリメイクで幸福を
3	3	フードフェスタを開催	こーてって！～松高フードフェスタ～
4	5	廃校を活用して自然の家にする	松浦あじョブる自然学園
5	2	お菓子開発	HAPPY菓子改革
6	7	松浦の社会減	w i t h松浦
7	4	ゲームを使って町おこし	オフライン
8	11	観光客の増加	バイクMT23・フードイベント
9	10	学生が集まる場所が少ないこと	空き家を活用し学生が集まることのできる場所を創ろう
10	9	農業支援（農業の魅力を伝えることで農業の人口問題を解決する）	長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる！
11	12	民話を活用し地域活性化	カップの頭と松浦の経済に潤いを
12	1	松浦の知名度を上げる・人口増加	松浦名物ガチャポン

- ・「まつナビ・プロジェクト」における地域課題のテーマ設定において、自らの興味・関心にそって設定するという方向性を学年団で共有した。
- ・5人程度の少人数のグループでのテーマ設定後、生徒一人ひとりと担当教員が面談を行い、テーマ設定と自らの興味・関心の関連性について確認をした。
- ・自分ごととしたテーマ設定を通じてキャリア形成とのつながり強めることができた。

【課題】

- ・生徒が設定するテーマが、過去の実践テーマに引きずられる傾向が強い。
- ・生徒一人ひとりのキャリア形成につながる課題研究テーマ設定が不十分である。
- ・見通しをもった高校生らしい研究活動が不十分である。

【次年度への反映】

- ・テーマ設定にいたる過程で、生徒にとって「自分ごと」のテーマとなるように、LHR等における「自分の将来」を考える活動とリンクさせていく。
- ・「自分の将来」を考えることができるよう、キャリアプランに関する研修をできるだけ多く設定する。

②ルーブリックを活用した各教育活動における定期的な自己評価（振り返り）と「松高ポートフォリオ」への記録・検証・取組の改善**【成果】**

- ・学びコーディネーターである長崎大学教育学部井手弘人准教授の助言により本校のプロジェクトチームが作成したルーブリックを採用した。
- ・各活動の振り返りの際にルーブリックを用いて自己評価を行った。
- ・「松高ポートフォリオ」を用いて、生徒は日々の学習や生活及び「まつナビ・プロジェクト」の活動の振り返りを行い、自らの学びの内容や深まりについて検証・改善を図ることができた。

【課題】

- ・ルーブリックやポートフォリオの作成は、プロジェクトチームの教員だけで行っており、その意義がまだ全教員に浸透していない。
- ・生徒にとってわかりやすく、他者からの評価も取り入れやすいルーブリックになっていない。
- ・ポートフォリオのデジタル化が進んでいない。

【次年度への反映】

- ・ルーブリックによる生徒の自己評価を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。
- ・ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させていく。
- ・ポートフォリオについては、デジタルでの作成を検討する。

(2) まつナビ・プロジェクト

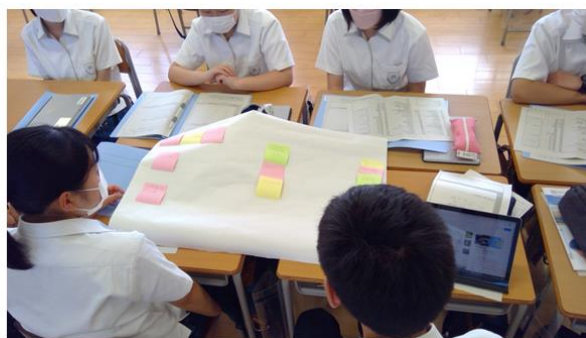
①地域課題解決型学習により、「課題分析・解決能力」、「ふるさとを大切にする姿勢」等を育成

【成果】

- ・1年生が探究の手法や必要なマインドセットを身に付けるために、外部講師による探究講演を行った。



■外部講師による探究講演



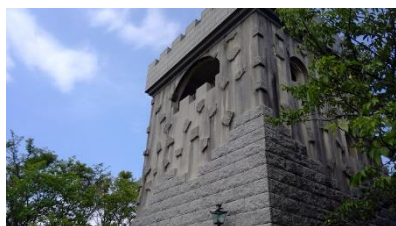
■グループ探究活動

- ・松浦市とその近隣都市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行うために、生徒が企画したバスツアーを実施した。なお、生徒は以下のA～Dの4つの希望するルートに分かれてツアーを実施した。

■生徒企画のバスツアーのルート

班	コース	ルート	内容
A	地域貢献・地域活性化コース	大山公園	大山公園見学・質疑応答（インタビュー調査）
		いろは島・花と冒険の島公園	いろは島見学・質疑応答（インタビュー調査）
		伊萬里百貨店	百貨店社長へインタビュー調査
B	人口・環境問題コース	県立大	地域課題の現状とその対策に関する講話・ディスカッション
		海きらら	海洋生物を取り巻く環境の学習
		星きらり	太陽が地球に与える影響の学習
C	産業コース	エミネントスラックス	工場見学・質疑応答
		平戸市役所	観光客誘致についての工夫について・質疑応答
		平戸大橋公園	昼食休憩
		双日ツナファーム	工場見学・質疑応答
		エンマキ	工場見学・質疑応答
D	歴史・国際・文化コース	鷹島 住吉神社	神社見学・質疑応答
		文化財センター	文化財の説明
		今福 今福神社	神社見学
		星鹿 姫神社	神社見学
		志佐 淀姫神社	神社見学

○A 班（地域貢献・地域活性化コース）



◆大山公園



◆いろは島・花と冒険の島公園



◆伊万里百貨店

★生徒感想

伊万里百貨店では新しいモノを作るのではなく、脈々と受け継がれる伊万里の魅力あるヒト、伊万里の魅力あるモノ、伊万里の魅力あるコトを全国でも文化や風景、今ある地域資源をベースに規格からデザイン、販売までワンストップで商品化していることがわかった。地元の情報を伝えるなどして街を盛り上げていくなどといった今回学んだことを参考にしながら今後のまつナビをみんなと協力して活かしていきたい。

○B 班（人口・環境問題コース）



◆長崎県立大学



◆海きらら



◆星きらり

★生徒感想

長崎県立大学に行き、話を聞くだけでなく意見を共有しあう場を設け皆の意見を聞くことができました。人口問題について向き合い、これからの未来をどう変えていくのかを考えていきたいです。少子高齢化が進行しているのは事実ですが、行動しない限り何も変わらないままなので自分たちの故郷、松浦の長所を生かし地域活性化に取り組んでいきたいと思えます。

〇C 班（産業コース）



◆エミネントストラックス



◆双日ツナファーム



◆日本遠洋旋網漁協

★生徒感想

私はエミネントストラックスについてあまり知らなかったのですが、今回のバスツアーを通してエミネントストラックスは世代を渡ってみんなで働けるいい会社ということと、高品質なストラックスを作って全国の人に使ってもらうことができるすごい会社だということも同時に知ることができました。

〇D 班（歴史・国際・文化コース）



◆市文化財センター



◆淀姫神社



◆姫神社

★生徒感想

お話を聞かせてもらって、私が印象に残ったことは、名前の由来です。「ぎぎが浜」はみこしを担いだ人たちが砂浜を歩いた時にギギ、ギギ、と砂が鳴っていたことからつけられた名前と聞き、すごく面白いなと思いました。そして昔の人が神社を造った理由が、街をひとつにするためと聞いてなんか微笑ましかったです。

- ・テーマ設定力やコミュニケーション力等を身に付けるために、徒歩で回れる地域を活動班に分かれて、松浦高校周辺の松浦市志佐町のフィールドワークを行う、「志佐んぼ」を実施した。



■地域の事業所を訪問してインタビュー



■フィールドワークを行いながら清掃活動

- ・コミュニケーション力・論理的思考力等を身に付けるために、9月14日にこれまでの学習成果をまとめた学習報告会を実施した。



■学習報告会

- ・校外での活動の機会を増やし、フィールドワーク等による地域との交流の機会が増えた。
- ・地域の伝統行事にも参加し、「ふるさとを大切にする姿勢」の醸成を図ることができた。
- ・外部講師による研修会・ワークショップ等を実施し、生徒同士が協議をする場面を多く取り入れ、グループでの課題解決に必要な対話のスキルや探究のスキル等を身に付けさせた。
- ・課題研究活動に必要な知識・技能習得のための豊富なインプットができた。

【課題】

- ・生徒の研究と地域のリソースとのマッチングが不十分である。
- ・課題解決に必要なデータの収集・活用・分析力の育成が不十分である。

【次年度への反映】

- ・生徒が設定した研究テーマと地域のリソースの mismatch を防ぐ方策を検討する。
- ・大学との連携により、生徒のデータ活用に関する能力の向上や、教員のデータサイエンスに関する研修を行い、生徒の学びの充実につなげる。

②生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動の推進

生徒が中心となった行事等の企画・運営

【成果】

- ・「まつナビ・プロジェクト」に係る発表会の運営の一部を生徒に任せた。
- ・イベント参画を通じて、若手事業者の郷土や子育てに対する思い、イベント運営の難しさなどを知ることができ、学校で経験できない貴重な学びとなった。
- ・松浦市の若手事業者が加盟する松浦商工会議所青年部（松浦 Y E G）が主催する「松浦こども博」に、生徒会役員の生徒が中心となって企画段階から関わった。

【課題】

- ・「まつナビ・プロジェクト」に係る行事等の企画に生徒の携わりが少ない。

【次年度への反映】

- ・「まつナビ・プロジェクト」に係る発表会の生徒主体の企画・運営。
- ・オンライン会議を利用して、効率的に事業所と「まつナビ・プロジェクト」の打合せを行う。
- ・市民が地域課題解決について考える「松浦未来会議」にできるだけ多くの生徒を参加させ、幅広い年齢層の市民の考えを聞く機会を設ける。

(3) 一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実

生徒一人ひとりのキャリアプランを踏まえ、ICTを有効に活用した、主体的で対話的な深い学びの推進

【成果】

・教科横断型と地域連携の授業づくり

これまでの各教科での学びを多角的に深めるために、教科横断型と地域連携の授業づくりを行った。



■教科横断型授業
(国語科と英語科)



■地域連携の授業
(元寇船錨引上げ)

■授業実践例

教科・科目 実施日	授業内容	まっナビ・プロジェクトと リンクする授業目標
9月26日 地理総合	台風を教材に防災について知るための長崎地方気象台とのコラボレーション授業	専門的な台風等防災への知識・教養を深める。また、台風通過時の授業で自然災害の見識を高めた。
10月26日 歴史総合	淀姫神社における伝統的な流鏝馬見学	歴史総合の一環として、地域を愛し大切にする姿勢の育成。
11月18日 地理&数学	エラトステネスになって、地球の大きさを測定しよう	論理的な思考で課題に取り組むことができるようになる。
12月6日 歴史総合	国学院大学池田教授による、鷹島における元寇船の引き上げの講話	歴史総合の一環として、地域を愛し大切にする姿勢の育成。
12月20日 国語&英語	国語と英語で学習する「使役動詞」を比較してみよう。	課題発見能力を高める
3月3日 商業&まっナビ	今後の研究構想発表会や2年次の研究に向けて、効果的なパワーポイントの作成法を身に付けよう	プレゼンテーション能力の育成

- ・教科横断型及びICTを利活用した授業を公開し、教育効果を高める授業の在り方を全職員で共有できた。

【課題】

- ・ICTを有効に活用した主体的で対話的な深い学びが継続的に実践できていない。
- ・地歴公民科以外の教科と外部機関の連携ができなかった。

【次年度への反映】

- ・ICTを利活用した授業についての計画的な研修の実施。
- ・「まっナビ・プロジェクト」のカリキュラムの再検討やICTを利活用した授業改善研修を通じて、これからの時代の教員に必要なスキルや主体性などのマインドセットを図る。

(4) 松浦高校における事業の管理

①地域科学科における、「資質・能力」の育成を目指した各教育活動の充実及び各教育活動の関連性の強化を図るため、PDCAサイクルに基づく組織マネジメントを以下の体制で推進した。

- ・地域科学科・プロジェクトチーム
プロジェクトリーダー（主・副）、コーディネーター、各学年の担当者等
- ・地域科学科・活性化ミーティング
校長、教頭、プロジェクトリーダー、コーディネーター等

【成果】

- ・各教育活動の関連性を強め、「資質・能力」を育成する活動としていくための企画・調整（カリキュラム・マネジメント）の推進を図った。
- ・一人ひとりの生徒の「資質・能力」を育み、地域の未来を担う人材の育成を図るための「3年間計画」を策定し、計画に基づいた実践について検証・改善を図った。特に8月以降は、課題解決型学習「まっナビ・プロジェクト」の年間計画の見直しをはじめ、外部機関等の専門家にも助言をもらいながら、令和5年度の計画を作成した。
- ・具体的な活動内容や目的の共通理解とマインドセットを行うために、毎週水曜日にプロジェクトチームのメンバーに管理職を加えた意見交換等を実施し、まっナビ・プロジェクト活動の充実を図った。

【課題】

- ・各教育活動の目標を各学年担当者間で共有しながら、教育活動を推進していくこと。
- ・活性化ミーティングでの検討内容を各学年担当者に浸透させること。
- ・教員間の意識やファシリテート能力の格差が存在すること。

【次年度への反映】

- ・活性化ミーティングにおける、普通科改革に係る各事業や実践について、それぞれの

区切りごとに検証を行う。

- ・生徒の自己評価等にもとづいて、各教育活動の改善案を検討する。
- ・運営指導委員会・コンソーシアム会議における意見等を踏まえ各教育活動の改善案を検討する。
- ・活性化ミーティングの内容を全教員にフィードバック（情報提供）し、活動の目的の目線合わせを行う（スキル格差を小さくする）。
- ・活性化ミーティングと地域や生徒との協議会の実施（ルーブリックのブラッシュアップ）。

■資料（例） 10月26日のMNP（まっナビ・プロジェクト）チーム会議
&活性化ミーティング

第17回 MNP チーム会議 活性化ミーティング 令和4年10月26日	校長	教頭	3年主任	2年主任	記録
出席：【MNP チーム】 【活性化ミーティング】					

〔議題〕

【MNP チーム会議（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）】

1. 今日の計画（10月26日）
 - (1) プレまっナビ（6，7時間目）
→志佐くんち「やぶさめ」見学 14：20集合→15：50帰着
 - (2) まっナビ（6，7時間目）
→校内発表会準備 支出計画書の提出をお願いします。
 - (3) ポストまっナビ（7時間目）
→今後の活動計画「研究論文」進学就職決定者は論文を続けて完成させる
2. その他情報共有
 - (1) 後期（3学期含む）計画について
→2年生は、中学校訪問（1月25日）以降は4回しか活動日がない
→進路別の活動や、進路調べを行いたい
→まっナビの活動は、まっうらしごと図鑑
 - (2) 年間計画について
→現在1年生学年団で、令和5年度の2年生の計画を立ててみる
→令和5年度1年生の計画は、今年の1年生の活動から検討する
→活動の一つひとつに教育効果があったのかを考え（検証し）ながら、また、学校行事との兼ね合いを考えながら計画を立ててほしい。

(3) 11月2日(水) 福島中学校 学校説明会(生徒派遣)

→3年生6名を派遣予定

→進路が決定している生徒でかつ、昨年度まつナビで班長だった生徒を選出

【活性化ミーティング(新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業))】

1 新しい活動(連携) 予定

12月10日(土) 松浦商工会議所青年部との協働で松浦こども博を実施する。
(希望する生徒を募集・声かけをする)

1月24日(火) 志佐中学校との合同研修会勝山先生講演会(1年生)

1月25日(水) 市内中学校へのまつナビ発表(2年生)

2 その他

○来年の志佐中生は、「学びのルール」の下で主体的な学びを行ってきた生徒が入学してくることを理解しておく必要がある。

○まつうら高校応援団(仮称)構想について、多くの事業所から賛同(協力)をもらえそうである。

2 実施計画Ⅱ

2-1 活動目標

中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献

2-2 実施計画

地域及び学校活性化を図る教育活動等への支援体制（コンソーシアム等）の構築・充実

2-3 運営指導委員会

(1) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
無	佐々木 龍二	前長崎大学サテライトオフィス松浦コーディネーター、元松浦市立中学校長
長崎県立大学	本田 道明	学長補佐
鎮西学院大学	加藤 久雄	現代社会学部 教授
西海みずき信用組合	前田 幸輔	地域振興室長（前日本政策投資銀行）
自営業	川浪 剛人	前まつうら創生推進室長
県企画部政策企画課	伊東 啓行	企画監

(2) 運営指導委員会の取組

①第1回：令和4年7月28日(木)15:40～16:30 松浦高校会議室

※当初7月5日開催予定だったが、台風のため順延

〈委員からの主な意見〉

- ・新入生研修会でまつナビについて学習をしたり、先輩方の研究を聞いたりするというアイデアは、高校の在り方や自校に対する思い入れを強くするうえでよいことである。
- ・ルーブリック評価について、生徒の活動の振り返りを積み重ねていくことになると思うが、良いコンテンツをスルーしないようにポートフォリオを検討してもらいたい。
- ・何かプロジェクトを行うときには「俯瞰的」に考えることを必ず行っているが、事業全体を俯瞰的に見る時間がなく進んでいるように感じる。俯瞰的にみるためには、経験も必要であり、地域でいろいろな体験をさせる時間を作ることも必要である。

②第2回：令和5年2月17日(金)11:15～12:00 松浦高校会議室

〈委員からの主な意見〉

- ・ルーブリック評価がよく活用されている。
- ・ルーブリック評価について、自己評価と教員の評価の他にグループ内での相互評価も行うとよいのではないか。
- ・ルーブリック評価をする際、生徒にとって根拠がないとできていてもそう思わないのではないか。
- ・中学校における「まつナビ」のプレゼンテーションは、生徒のプレゼンテーション力

を培う上で大変有効である。

- ・インプットを受けての生徒の研究テーマ設定の幅が狭く、似たようなテーマが多い。地域のことを考えると多種多様なものがあるといい。

【次年度への反映】

- ・ループリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させ、生徒にとって分かりやすいループリックを作成する。
- ・各連携機関の方に実働的に関わっていただく「まつうら高校応援団」などの体制づくりを進める。

2-4 コンソーシアム会議

(1) コンソーシアム会議の体制

所属	氏名	主な実績
松浦市	友田 吉泰	市長
松浦市議会	谷口 一星	議長
松浦市教育委員会	黒川 政信	教育長
松浦市小中学校校長会	川原 祥	副会長（今福中学校長）
松浦市商工会議所	稲沢 文員	会頭
松浦高校PTA	川下 高広	会長
松浦高校同窓会	藤田 英敏	会長
長崎大学教育学部	藤本 登	学部長
長崎県立大学地域創造学部公共政策学科	吉本 諭	教授
株式会社エミネントスラックス	前田 周二	代表取締役社長
松尾農園	松尾 秀平	代表
長崎県教育庁高校教育課	田川耕太郎	課長

(2) コンソーシアム会議の取組

①第1回：令和4年7月6日（水） 15：50～16：30 松浦高校会議室

〈構成員からの主な意見〉

- ・学んだことが自分の将来にどうつながるのかを言語化（研究論文を作成すること）が、キャリア形成には大切。
- ・まつナビ・プロジェクトで一番大切なのは、「型」にはめずに、本当に好きなことをやらせること。そうすれば「語れる」ようになる。
- ・ループリックについては、地域の課題解決型学習を通して、何を身につけさせたいのかを地域や生徒にわかりやすく明示したほうが良い。身につけたことが将来役に立つということをループリックに落とし込む必要がある。

- ・「将来は松浦市に貢献したい」という生徒を育てていくには、生徒の自信（自己有能感）を高めることが必要。小・中学校でもそれを高めようとしている。

②第2回：令和5年2月17日(金)15:40～16:30 松浦高校会議室

〈構成員からの主な意見〉

- ・学びの蓄積を図るためにデジタルポートフォリオの活用を考えてほしい。
- ・行事や行動の振り返りで、常に自己有能感について尋ねたり、確認したりすることが大事。
- ・中学校においても「ふるさと教育」をしっかり行って高校に送り出すようにしたい。探究的な学びで地域を愛する生徒を育てていきたい。
- ・他の市町からも松高に来たいと思われるよう、まつナビが生きる力を育み、進路にも有利だということをアピールしてほしい。

【次年度への反映】

- ・ポートフォリオについては、デジタルでの作成を検討する。
- ・生徒に身に付けさせたい力をルーブリックに反映させる。
- ・生徒の活動を単なる提案に終わらせず実践活動にまでつなげ、さらにキャリア形成（進路実現）にもつながることを広報する。



■第2回コンソーシアム会議

2-5 松浦市、長崎大学、長崎県立大学をはじめとする学校外の組織等との協働

【成果】

- ・地域科学科の生徒（1年生11名）が、松浦市立御厨中学校3年生の公民科の授業「地方自治」に参加する機会を設定し、中学生とともに「松浦市への提言」について考えた。
- ・松浦中央病院との連携事業により医療系進学希望者対象に地域医療の現状や各専門職における業務内容等を聞く機会を設定して、生徒の地域医療等への課題意識の高まりが見られた。
- ・松浦中央病院と松浦消防署との合同演習「大規模災害訓練」に生徒が参加し、地域の防災意識に対する興味・関心を高めた。
- ・長崎大学での一日大学生体験において、ゼミでの研究発表や演習等を通して、研究方法を学び、生徒のキャリア意識の高揚を図ることができた。



■長崎大学での一日大学生体験

- ・長崎県立大学との連携による課題研究構想発表会を実施し、大学生から直接アドバイスをもらい研究の方向性を確かめた。また、大学生の研究論文発表を聞くことで、研究方法を学ぶことができた。
- ・生徒が外部の様々な研修に参加した。

- ・長崎県教育委員会主催の「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」高校生アントレプレナーシップゼミ
- ・十八親和銀行主催のNagasaki Startup Compassワークショップ「Biz World」による高校生向けアントレ講座
- ・宮崎県立飯野高校主催の全国グローバルリーダーズサミット
- ・地域・教育魅力化プラットフォーム主催の地域 mini 留学

【課題】

- ・地域の事業所等、連携先が限定的である。
- ・学校外の組織等との協働した取組が計画的・継続的なものとなっていない。

【次年度への反映】

- ・医療機関だけでなく、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた連携先を開拓する。
- ・生徒のキャリア形成力の向上という観点から、外部との連携の目的を明確にしながら、まつナビ・プロジェクトの年間計画を作成する。
- ・生徒が外部コンテスト等へより積極的に応募して、外部からの評価を得られるように、研究テーマに応じたコンテストを紹介する。



■高校生アントレプレナーシップゼミ（長崎県教委主催）

2-6 コーディネーターの活動内容

(1) 活動実績

①市内小中学校との連携

中高連携授業や学校説明会の実施

【成果】

- ・市内の小・中学校校長研修会と連携を図り、各校での生徒及び保護者向け学校説明会を実施するとともに、各中学校の進路指導担当者や担任との意見交換を行った。
- ・松浦市外の中学校を訪問し、昨年よりも早い段階から多くの学校説明会を実施した。
- ・中高合同の講演会・研修会の企画を立てることができ、中高生の企画・運営チームでその内容を検討することができた。(会自体は雪のため次年度に延期)

【課題】

- ・中学校教員とのより密な情報交換を行うこと。
- ・中学生の保護者に対する地域科学科の魅力を浸透させること。

【次年度への反映】

- ・教科指導に関する中高が連携した研修会および公開授業の実施。
- ・中学生教員および保護者向けの説明会の効果的な開催。

②松高生による課題研究発表会の参観

【成果】

- ・2年生による課題研究発表会を、地域科学科1年生とともに、松浦市立志佐中学校1年生全員が参観した。また、市議会議員および市役所職員、本事業管理機関等が参観した。

【次年度への反映】

- ・各中学校に生徒が出向いて行き、研究内容を発表する場を設定する。
- ・課題研究発表会を幅広く地域住民に公開する。
- ・校内における中間発表会を含めて、発表会に地域住民や大学生等を招いて継続的な指導
- ・助言を受けられる体制を構築する。
- ・課題研究について中学生と意見交換できる場を設定する。

(2) 地域との連携

①松浦商工会議所青年部(松浦YEG)との連携

【成果】

- ・松浦市で起業している若手事業者と生徒との交流の機会をつくり、生徒が起業家の「郷土松浦」への思いや実践事項を知る機会となった。
- ・若手事業者との交流の場を設けたことで、生徒の学びたいこと(知りたいこと)を課題の設定につなげることができた。

【課題】

- ・交流できる時間帯が夕方になり、下校時刻や部活動に影響を与える。
- ・生徒が地域協働を進めるための事業所等とのマッチングが不十分。

【次年度への反映】

- ・松浦Y E Gとの連携を密にし、学校行事とも連携を図りながら、「松浦こども博」の運営への生徒の参画を円滑に進める。
- ・地域連携による松浦高校と地元の大人の関わる人数をさらに増やす。(R 4年度のべ人数：3 4 1人)

②まつうら高校応援団設立に向けた協力依頼

【成果】

- ・第1回コンソーシアム会議で出された意見をもとに、「まつナビ・プロジェクト」の充実、特に課題解決の過程において、生徒が地域の人材から直接助言を得られるよう、まつうら高校応援団を設立するため、コーディネーターが地元事業所などを訪問し、協力依頼を行った。

■「まつうら高校応援団」に協力いただける地元事業所等

松高同窓会長、鬼橋電気、志佐ガス、FUSE、緑化園、インシャル不動産、吉原建設、(株)FTI 平戸総合保険事務所、LIB COFFEE、松浦商工会議所、みやだデザイン合同会社、住商エアバッグ、k u n u g i、松尾農園、稲沢鉄工、株式会社エミネントスラックス、中興化成、九州液化ガス、双日ツナファーム鷹島、百枝製菓、近江鍛工、九州電力松高発電所、松浦市役所、今福こども園、まつうら党交流公社、西日本魚市、長崎大学、元松浦高校長、劇団 HAGUMI、長崎新聞、日本遠洋旋網漁業協同組合
(3月8日現在 のべ32事業所等)

【次年度への反映】

- ・生徒が地域の課題を見出すための情報を提供してもらう。
- ・地域課題の解決に向けた指導・助言を受ける。
- ・地域課題を解決するための支援。
- ・地元企業（まつうら高校応援団）でのインターンシップの実施。

2-7 新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績

(1) 生徒・保護者対象

【成果】

- ・近隣の中学校を対象とした学校説明会、地区別相談会等で、地域科学科の学びの特徴に関する説明及び質疑応答をとおした疑問解消の取組。
- ・中学校の総合的な学習の時間や社会科の授業（市長への提言）等に地域科学科の生徒が参画した合同授業の実施。
- ・オープンスクールにおける生徒による「まつナビ」の実践発表及び地域科学科の特色の説明。
- ・ホームページ等による地域科学科に関する情報発信。
- ・コーディネーターと中学校との連携を密にした情報交換。

【課題】

- ・地域科学科の理解を深めるために中高の教員間の情報共有の機会を増やす。
- ・地域科学科に対する中学生の理解を深めるために、中学生と高校生の合同授業や探究活動のコラボレーションの機会を増やす。

【次年度への反映】

- ・地域科学科における学びの魅力を、中学生や保護者にもわかりやすく具体的に継続的に説明していく。
- ・市内中学生に意識調査等を実施し、本校が「選ばれる学校」になるための継続的な分析等を行っていく。
- ・小中学校での「まつナビ・プロジェクト」の説明会において、生徒が取組の内容を説明することにより、本活動の成果の普及を図る。

(2) 地域住民等対象

【成果】

- ・ポスターやチラシなどを使った「地域科学科」の周知徹底
- ・学校のホームページの「地域科学科」のカテゴリの更新・充実
- ・地域課題解決型学習「まつナビ・プロジェクト」を活用した情報の発信

【課題・次年度への反映】

- ・「まつナビ・プロジェクト」の成果・普及をとおして入学志願者増に結びつける。
- ・「まつナビ・プロジェクト」発表会を地域住民等にも一般公開する。

(3) 県内外の自治体・学校対象

- ・県内県立高校9校とネットワークを構築し、研修会を実施
- ・九州地区普通科校長会での実践報告
- ・令和4年度高校コーディネーター全国フォーラム第3回コーディネーター研修での発表
- ・本校を訪問した以下の教育委員会・高校に新学科の状況について説明

9月14日（水）広島市教育委員会・広島市立美鈴が丘高校
10月27日（木）長野県蘇南高校
11月9日（水）佐賀県立唐津西高校
11月16日（水）福岡県立大川樟風高校
12月12日（月）大分県教育委員会
2月3日（金）熊本市教育委員会・熊本市立必由館高校
2月15日（水）広島県教育委員会

2-8 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

【成果】

- ・本事業の指定校となり、生徒の幅広い課題研究活動が可能となっている。また、松浦市や地域の事業所等の職員が生徒の活動に伴走したり、アドバイザーとして専門的な助言をくれたりしている。
- ・松浦市長を中心としたコンソーシアム会議等、地域を巻き込んだ協力体制や生徒の教育活動を支援する持続可能なシステムは構築されている。

【課題】

- ・特定の事業所に、生徒の活動が限定されている。
- ・学校（生徒）と地域協働におけるマッチング体制の構築。
- ・令和7年度以降のまつナビ・プロジェクト推進のための組織および生徒の活動費の確保。

【次年度への反映】

- ・まつうら高校応援団の活動を軌道にのせ、地域からの支援を幅広く受けられる体制づくりを進める。
- ・プロジェクトチームによる意見交換等を実施し、具体的な活動内容や目的の共通理解及びスキルを身に付けさせるための指導法の向上や生徒に伴奏するマインドセットの醸成を図り、まつナビ・プロジェクト活動の充実を図る。
- ・令和7年度以降の運営指導委員会・コンソーシアム等の組織の在り方および予算措置についての検討をはじめめる。
- ・令和7年度以降のコーディネーターの設置および予算措置についての検討をはじめめる。
- ・「まつナビ・プロジェクト」に係る生徒の活動費の在り方について検討をはじめめる。

2-9 他の事業との関係

【成果】

- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を踏まえた新たな取組の実践。
- ・ルーブリックの開発
- ・中高・高大連携の強化
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築
- ・立命館宇治中学・高等学校のWWLコンソーシアムに加盟。
- ・オンラインなどによる教員間、生徒間交流の機会の設定予定
- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる「高校魅力化評価システム」を導入し、より客観的なデータによる分析を行うことができた。

【次年度への反映】

- ・「高校魅力化評価システム」による評価結果を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。

3 実施計画Ⅲ

3-1 活動目標

県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

3-2 実施計画

県内外の「地域に根ざした高校」のネットワークの構築と協働による、参加各校の活性化

3-3 活動内容

「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

【成果】

- ・ 県内県立高校9校とネットワークを構築し、2回の研修会を実施した。
 - 第1回研修会（7月15日）
 - 大正大学地域創生学部浦崎太郎教授による講演会及び参加者による情報共有。
 - テーマ：新時代に対応した高校改革
 - 情報交換：効果を上げている取組や魅力化の取組、課題となっていること
 - 第2回研修会（10月7日）
 - 宮崎県立宮崎東高等学校定時制西山正三教諭による講演会及び参加者による情報共有。
 - テーマ：進学多様校での探究学習導入ステップ
 - 情報交換：効果を上げている取組や魅力化の取組、課題となっていること、探究学習に前のめりになるような仕掛け、工夫
- ・ 「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の教員研修を通じて、学校の魅力化・特色化や探究活動等に関する情報共有を図ることができた。
- ・ 学校間の情報共有を通じて、参加者の意識の高揚を図ることができた。

【課題】

- ・ 参加各校の取組み内容に踏み込んだ情報共有と意見交換の時間設定が不十分である。
- ・ 情報共有後の担当者間での振り返りが不十分である。

【次年度への反映】

- ・ オンライン会議だけでなく、担当者間の対面研修会を実施する。
- ・ 定期的なオンライン会議を設定する。
- ・ 参加各校の生徒による生徒間交流を実施する。

第3章 管理機関の役割

1-1 管理機関による活動実績

【成果】

(1) 実施内容および日程

実施内容	日 程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①運営指導委員会				○							○	
②コンソーシアム会議				○							○	
③学校訪問指導 (授業 探究活動 発表会等)				○ 2回						○	○	
④ネットワークオンライン研修				○			○					
⑤県外先進校視察											○	
⑥高校との事業進捗確認	随 時											

①運営指導委員会及びコンソーシアム会議をそれぞれ年2回開催し、事業内容について、特に以下の項目の指導・助言を受けた。

- ・指導と評価の一体化を目指すカリキュラム開発
- ・中高連携、高大連携による生徒の資質・能力の育成
- ・県内外の高等学校との連携による教員・生徒の資質・能力の向上

②探究活動や発表会（7月、1月）や、県内他校とのネットワークオンライン研修に参加（7月、10月）し、事業の実施状況を把握した。

③ループリックの改善に向けて、生徒や地域の方の関わりや、地域課題解決型学習と授業のつながり等について、事業の改善への提案を行った。

④先進的なコーディネーターの取組等を行っている県外高校を、松浦高校とともに視察し、支援体制について意見交換を行った。

[視察先および主な聴取内容]

①岩手県立大槌高校（2月6日）

- ・コーディネーターの役割について
- ・大槌町との連携について
- ・地元の中学校からの進学状況について
- ・町からの支援・資金的援助について 等

②山形県立小国高校（2月7日）

- ・コーディネーターの役割について
- ・小国町との連携について
- ・地元の中学校からの進学状況について
- ・高校魅力化評価システムを含めた活動の具体的な評価方法について 等

③宮城県仙台第三高校（2月8日）

- ・探究に係る校内組織と教員間の連携について
- ・カリキュラム・マネジメントについて
- ・情報機器の整備状況及び活用状況について 等

【課題】

- ① 生徒にとってわかりやすいルーブリック作成の支援。
- ② 運営指導委員会およびコンソーシアム会議の運営の更なる充実。

【次年度への反映】

- ① 運営指導委員会やコンソーシアム会議での意見を踏まえ、令和4年度の課題を学校とともに整理し、次年度の取組に反映させる。
- ② 令和5年度の運営指導委員会およびコンソーシアム会議（第1回）の早期開催を検討し、事業の方向性や内容の検討を行う。
- ③ ルーブリックの作成および改善等の取組について、オンラインでの打合せなど、高校と密に連携を行う。
- ④ コーディネーターの活動の充実を図るため、他県のコーディネーター設置校と連携し、情報交換を行う。

【次年度における管理機関の支援】

- ① 生徒にとって分かりやすいルーブリックの作成および改善について、学びアドバイザーとともに指導・助言を行う。
- ② ルーブリックによる指導と評価の一体化を更に推進するため、外部アセスメントによる評価結果の検証の支援を行う。
- ③ 地域に根ざした高等学校との連携の充実を図るため、関係高校への協力依頼などの支援を行う。

第4章 事業検証と次年度に向けて

1-1 今年度の目標設定についての検証

本構想において実現する成果指標は、次の3つである。なお、成果の検証は、生徒へのアンケートおよび生徒のルーブリック評価により行った。

- ①キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率（％）
- ②発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）
- ③育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力等）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

ふりがな	ながさきけんりつまつうらこうとうがっこう
学校名	長崎県立松浦高等学校

令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業） 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値(4年度)
(成果目標) キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率						単位:％
a 本事業対象生徒:			85	90	95	85
本事業対象生徒以外:	75	75	80	85	90	80
目標設定の考え方: 令和3年度の卒業生の進学先をもとに算出						
(成果目標) 発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合						単位:％
b 本事業対象生徒:			80	85	90	80
本事業対象生徒以外:	70	70	75	80	85	75
目標設定の考え方: 令和3年度学校設定科目、課題探究活動「まつナビ・プロジェクト」の研究プロジェクト10をもとに算出						
(成果目標) 関連するルーブリック評価規準(課題解決能力等)の到達度(5段階)における生徒自己評価の平均値						単位:ポイント
c 本事業対象生徒:			3.0	3.5	4.0	3.0
本事業対象生徒以外:			2.8	3.2	3.8	2.8
目標設定の考え方: 令和3年度まつナビ・プロジェクトにおける生徒自己評価の平均値をもとに算出						

< 調査の概要について >

1. 生徒を対象とした調査について

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
全校生徒数(人)	258	237	218	247	283
本事業対象生徒数			29	109	189
本事業対象外生徒数			189	138	94

■松高ルーブリック

育成を図る資質能力	テーマ設定力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション力（傾聴・対話・発信）
評価基準	①現状分析がしっかりできているか	②フィールドワークの効果が見られるか	③今後の展望（提言・実践）が明確か	④パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か
評価の観点	思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動1：省察・評価）	学びに向かう力・人間性等（レジリエンス能力）	論理的思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動2：「計画」部分）	知識・技能（プレゼンテーション技術）・思考力・判断力・表現力等（リーダーシップ・対話力・協調性などの社会的能力）
段階（規準）				
1	現状を語る事ができている。	フィールドワークの内容について話す事ができている。	これから行おうとしている予定を表明することができている。	パワーポイントのスライドを、規定に沿ってつくり、発表することができている。
2	現状とそこに至るまでのプロセスを断片的に語る事ができている。	フィールドワークの内容と、その成果について話す事ができている。	これから行おうとしている予定を具体的に表明することができている。	文字の大きさや色などを変えて「見やすさ」に工夫を加えることができ、時間内に発表することができている。
3	現状と、そこに至るまでのプロセスを、一連のストーリーとして語る事ができている。	フィールドワークの内容とその成果および課題について話す事ができている。	残り期間で現実的に可能な展望（提言・実践）を具体的に表明することができている。	図や表なども使った視覚的な工夫を加えたパワーポイントスライドを作成でき、時間内に、かつ原稿にあまり目を遣さずに発表することができている。
4	現状と、そこに至るまでのプロセスを語ることも、その要因がどこにあるのかについて言及・表明することができている。	フィールドワーク前の仮説に基づいて、その内容・成果・課題について整理し話す事ができている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果があると想定できる活動について、道すじを立てて、具体的に表明することができている。	パワーポイントのスライドに加え、話し方も工夫を加えて、聴衆を引きつけようと努め、顔を見ながらできている。
5	達成目標を前提に、現状までのプロセスを言語化・可視化し、到達している点と追加検証を加える必要がある点とを明確にできている。	フィールドワーク前に仮説に基づいたデータ検証や、現地で直面した課題に今後向かおうとする姿勢が明確に表明できている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果のある具体的な提言等、および自分たちおよびその周囲が持続可能な形で実践に参画できるようにするための方略を道すじを立てて、表明することができている。	視覚情報としてのパワーポイントと、発表の発言内容との役割を明確にし、聴衆である生徒に対し対話を促しながら相互に考え、説得力を持った発表を時間内で行うことができている。

①成果指標：キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率（％）

○アンケートの質問内容

まつナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力（キャリア形成力）が高まったと思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：87.1％（令和4年度成果目標値：85％）

○評価

- ・キャリア形成力が高まった（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は87.1％であり、1年生全体（商業科を含む）81.1％より6ポイント高かった。
- ・地域に根ざした高校との生徒間交流や、カリキュラム・マネジメントのさらなる推進など、取組の充実が必要である。

②成果指標：発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

○アンケートの質問内容

あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：100.0％（令和4年度成果目標値：80％）

○評価

- ・現在、地域科学科は仮のテーマ設定中であるが、地域活性化につながると思う（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は100.0％であった。
- ・地域科学科の多くの生徒が、松浦市職員、大学教員との協働学習において主体的に活動する姿が見られた。また、商業科との協働により、地域課題解決学習が推進された。
- ・次年度、生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。
- ・中高および高大の連携交流により、自分の研究について理解を深めることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。

③成果指標：育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

○結果

- ・地域科学科生徒の実績値：1.54（令和4年度成果目標値：3.0）

○評価

- ・ルーブリック評価規準における目標値の3.0に対して、結果が1.54であり、

- 目標を1.46ポイント下回った。
- ・生徒にとってわかりやすく、他者からの評価も取り入れやすいルーブリックへの改善が必要である。

1-2 次年度に向けて（課題改善の方向性）

(1) 令和5年度計画は以下のとおりである。

	令和5年度
計画Ⅰ	キャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリックを用いた評価の検証・改善、各教育活動への反映
計画Ⅱ	前年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動等への支援の検証・改善
計画Ⅲ	「地域高校」ネットワーク参加高校間で生徒どうしの交流会を実施し、その効果を検証する。

【次年度に向けて】

①計画Ⅰについて

- ・まつナビ・プロジェクトの課題研究テーマ設定にいたる過程で、生徒にとって「自分ごと」のテーマとなるように、LHR等における「自分の将来」を考える活動とリンクさせていく。
- ・「自分の将来」を考えることができるよう、キャリアプランに関する研修をできるだけ多く設定する。
- ・ルーブリックによる生徒の自己評価を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。また、ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させていく。
- ・ポートフォリオについては、デジタルでの作成を検討する。
- ・生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのミスマッチを防ぐ方策を検討する。
- ・大学との連携により、生徒のデータ活用に関する能力の向上や、教員のデータサイエンスに関する研修を行い、生徒の学びの充実につなげる。
- ・医療機関だけでなく、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた連携先を開拓する。
- ・生徒のキャリア形成力の向上という観点から、外部との連携の目的を明確にしながら、年間計画に組み込む。
- ・生徒が外部コンテスト等へより積極的に応募して、外部からの評価を得られるように、研究テーマに応じたコンテストを紹介する。
- ・ICTを利活用した授業についての計画的な研修を実施する。
- ・「まつナビ・プロジェクト」のカリキュラムの再検討やICTを利活用した授業改善研修を通じて、これからの時代の教員に必要なスキルや主体性などのマインドセットを図る。

- ・地歴公民科以外でも、地域と連携した授業を実施する。

②計画Ⅱについて

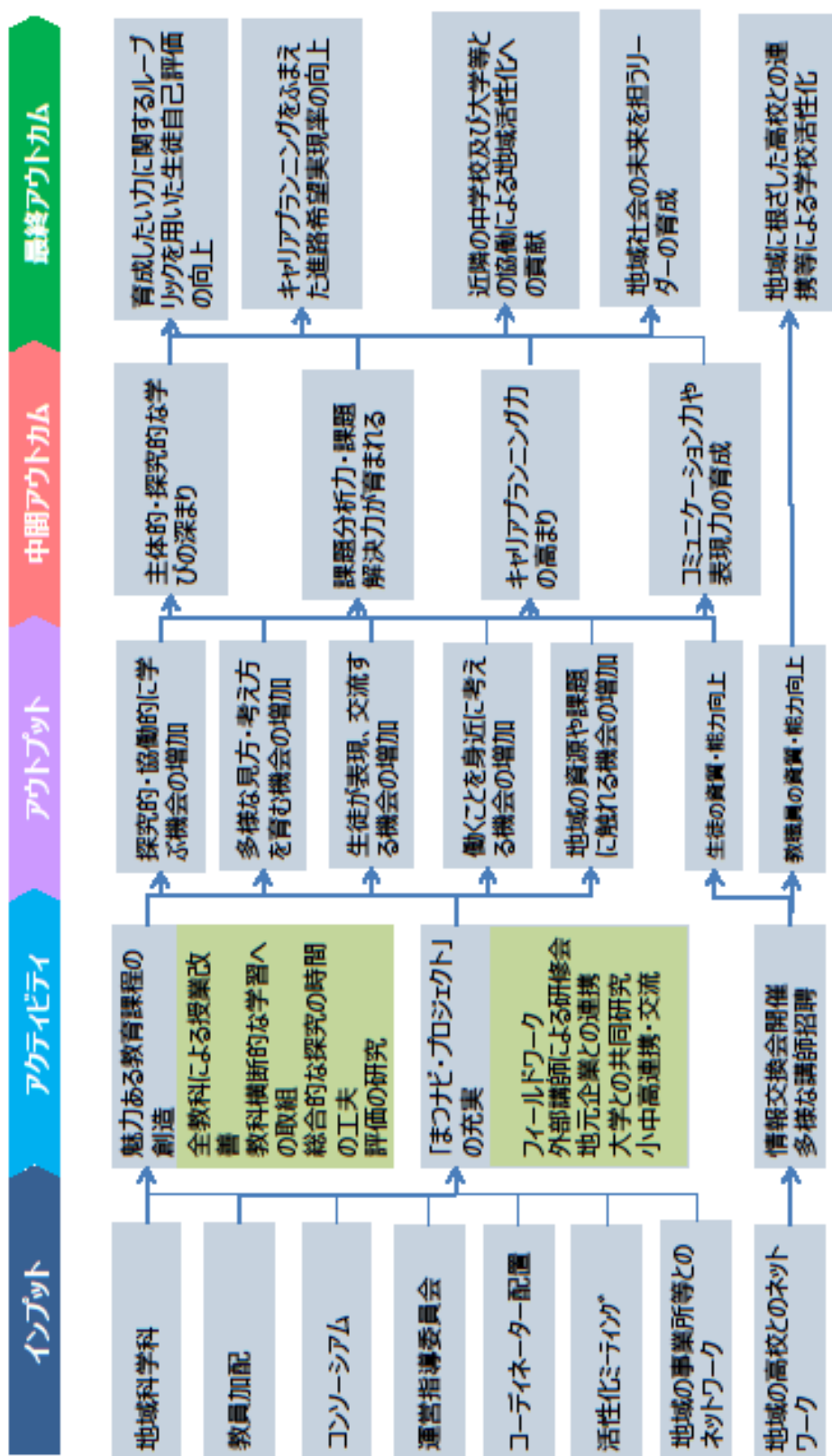
- ・ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させ、生徒にとって分かりやすいルーブリックを作成する。
- ・各連携機関の方に実働的に関わっていただく「まつうら高校応援団」などの体制づくりを進める。
- ・各中学校に生徒が出向いて行き、研究内容を発表する場を設定する。
- ・課題研究発表会を幅広く地域住民に公開する。
- ・校内における中間発表会を含めて、発表会に地域住民や大学生等を招いて継続的な指導を行うような助言を受けられる体制を構築する。
- ・課題研究について中学生と意見交換できる場を設定する。

③計画Ⅲについて

- ・オンライン会議だけでなく、担当者間の対面研修会の実施。
- ・定期的なオンライン会議の設定。
- ・参加各校の生徒による生徒間交流の実施。

参 考 资 料

ロジックモデル（長崎県立松浦高等学校）



ココまつ (ココにも松高)

令和4年4月9日(土) 長崎新聞

松浦高に地域科学科

県内の多くの公立高校と特別支援学校で8日、入学式があり、新入生がそれぞれの夢を胸に新たな一歩を踏み出した。本年度は計約8千人が入学する。

松浦市志佐町の県立松浦高(舟越裕校長)では本年度から文部科学省、県教委の高校教育改革の一環として「普通科」をキャリアアップリングに応じた学びと、同校が松浦市と協働で取り組んでいる「地域課題解決型学習」(まつナビ)をさらに探求する全国初の「地域科学科」に改編。1期生



新入生を代表して宣誓する「地域科学科」の1期生、山崎さん
|| 松浦高

となる31人が商業科の24人と学びの門をくぐった。入学式では新入生の名前が一人ずつ読み上げられ、新入生を代表し、地域科学科の山崎康樹さんが「立派な校風を創るよう努力する」と宣誓。舟越校長が「松高での学びを通じてチャレンジすることや、真の自分を追い求めることで成長してほしい」と式辞。在校生を代表し、生徒会長の吉岡優奈さん(普通科3年)が歓迎の言葉を述べた。

入学式の前には「地域科学科」の開科式もあり、県教委のあいさつや松浦市の友田吉泰市長の祝辞で新しい学科のスタートを祝った。(大島信裕)

入学式 夢を胸に新たな一歩

ココまつ (ココにも松高)

令和4年4月9日(土) 西日本新聞

松浦高が地域科学科新設

全国初 31人入学「立派な校風創る」



入学式で校歌を歌う地域科学科の新入生たち

松浦市の松浦高で8日、本年度から普通科を改編して新設された「地域科学科」の開科式と入学式があった。

同校では、全国初の取り組みとなる地域科学科について、社会の変化に対応で

きる課題解決能力と古里を大切にふるまう姿勢を身に付けることにより希望する進路実現を図る「シン(深)化した普通科」とアピール。第1回生として、昨年度の普通科入学生より26人少ない31人が入学した。

開科式では、県高校教育課の田川耕太郎課長が「皆さんは期待の星。時代の先端を行く学科で学べることに誇りを持ち、志高く全国に発信してほしい」とあいさつ。入学式で舟越裕校長は大リーグの大谷翔平選手を例に「人生はチャレンジの連続。チャレンジを通じてシン(真)の自分を追い求めて」と激励した。

新入生を代表し、地域科

学科1年の山崎康樹さんは「松高生としての自覚を持ち、立派な校風を創るよう努力します」と宣誓した。

商業科には昨年度より4人少ない24人が入学した。

(福田章)

ココまつ (ココにも松高)

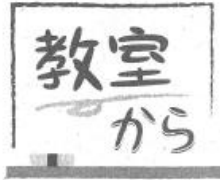
令和4年7月20日 (水) 読売新聞

2022年(令和4年)7月20日 (水曜日) 1頁

受け身の学習を変えよう

全国の7割の高校生が通う普通科に特色や魅力を持たせようと、4月から「高校普通科改革」がスタートした。大学受験に備えて受け身の学習になりがちだった学びの環境を変え、課題発見力や思考力など、新しい時代を生きる上で必要な力を培う狙いがある。

(植田優美)



長崎県松浦市にある唯一の高校、県立松浦高校は今年4月、従来の普通科を「地域科学科」に改編した。

6日午後、地域科学科1年生の約30人は、商業科の生徒と合同で「総合的な探究の時間」の授業に臨んでいた。テーマは「対話」。福岡県福津市のまちづくり団体代表で、慶応大特任教授でもある山口寛さん(53)

高校普通科改革

が講師に招かれた。「外見も声もうり二つの転校生2人がやってきたが、『双子ではない』と言う。なぜでしょう?」。山口さんは冒頭、こんな問いを投げかけた。生徒たちは戸惑いつつも、「生き別れのきょうだい」「実は三つ子」などと意見を出した。山口さんが「他には?」と促すと、生徒からは次々と違うアイデアが出た。その後、生徒たちは多数決で決めた「宇宙人はいる?」というテーマで対話。4〜6人の班のうち、1人は適度に発言を促したり、相づちを打ったりする進行

課題発見、思考力培う

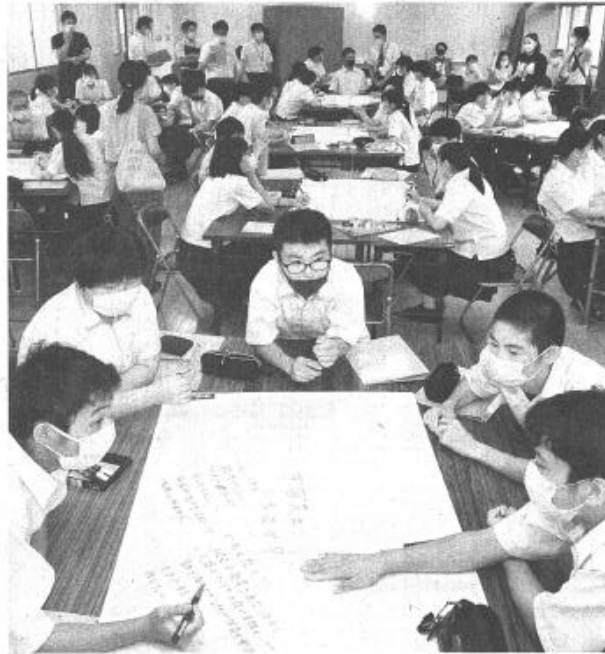
役に挑戦した。

山口さんが伝えようとしたのは、正解を求めるとはなく、他人の意見にじっくり耳を傾けることで新たな発想を生み出すのが「対話」だということだった。「学校の勉強などで切磋琢磨する『競争』も大事だが、これからは『共創』の時代。松浦の未来のために、対話を身につけてほしい」。山口さんの呼びかけで授業は締めくくられた。「地域や人と関わる仕事がいい」と入学を決めたという久保来希さん(16)は「コミュニケーション力を鍛えられるような授業を毎週受けられて楽しい」と充実した様子だった。生徒たちは今後、市のまちおこしなどに取り組む予定だ。

文部科学省の普通科改革支援事業には今年度、全国の18校が指定されている。九州・山口・沖縄では松浦高のほか3校があり、宮崎県立飯野高校(えびの市)では、市内の事業所での職業体験などを通して、地域課題の発見に取り組んでいる。同高は地域課題を解決しながら、国際課題も考える「グローバル」な人材の育成を掲げており、生徒の発案をきっかけに中東・イemenへの支援活動も行っている。

松浦高の授業に助言している長崎大の井手弘人准教授(学習社会学)は「新しい普通科の学びは自分で考え、語ることでできる力を養うもので、自己肯定感の向上や高校卒業後のキャリア形成に大きく役立つ」と指摘。「地域や学校に愛着を持つ生徒の育成にもつながり、将来、地域で活躍できる人材も生まれるだろう」と期待する。

（第3種郵便物認可）



「宇宙人はいる？」をテーマに対話し、意見を模造紙に書き出す生徒たち（6日、長崎県松浦市の松浦高で）—久保敏郎撮影

授業の興味・関心アップへ



高校の授業を巡っては、2001年生まれの子ども約3万人を対象にした国の追跡調査で、「楽しいと思える授業がたくさんある」に「そう思う」と答えた割合が中学1年時点では74.9%だったのが、高校2年時点では56.4%にまで減少するなど、学習意欲の低下が指摘されていた。

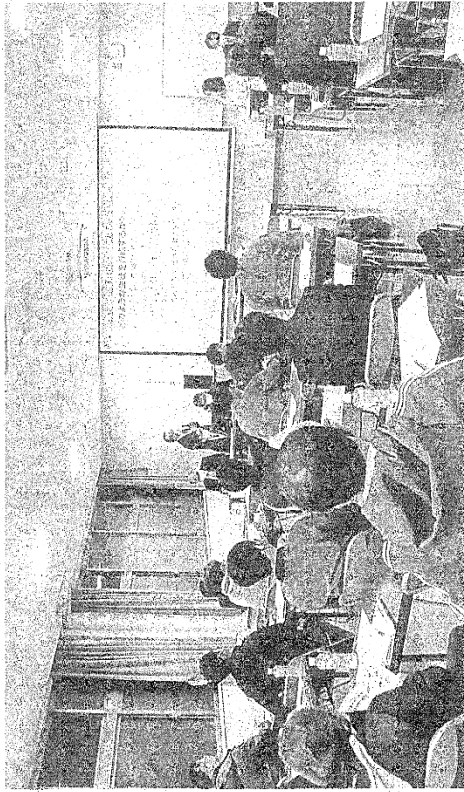
文部科学省はこうした現状を踏まえ、大学進学を見据えた画一的な教育から、生徒の興味・関心を踏まえた学びを目指し、19年から普通科改革を議論してきた。

文科相の諮問機関、中央教育審議会が21年1月の答申で、普通科と同じ枠組みの中で特色ある新学科の設置を可能にするよう求めたことを受け、文科省は同年3月に省令を改正。22年度から、文系、理系の枠を超えて最先端の学びを深める「学際領域学科」や、学校が立地する自治体が抱える課題について解決に取り組む「地域社会学科」などを設置できるようにした。

令和5年3月22日(水) 長崎新聞

「まっつうら 高校応援団」設立へ準備

30の団体、事業所 人材育成支援



地域を挙げての支援を促す「まっつうら高校応援団」の準備会議。上松浦高で開く

地域を挙げて県立松浦高(舟越校長、松浦市佐々町)を支援する「まっつうら高校応援団」の設立に向けた準備が進められている。17日、同校で会議があり、市や松浦商工会議所、長崎大など約30の団体、事業所が参加した。

同校は、人口減少や少子高齢化で定員割れが続いている。こうした中、「応援団」は、同校の魅力をアピールし、生徒の確保につなげることに、地域を支える人材育成に協力するが目的。新年度の設立を目指している。

会議では、生徒が地域の課題を研究し、解決策の実

践や提言に取り組む「まっつうらプロジェクト」の内容などについて報告。藤田英敏同窓会長が応援団の設立趣旨や規約案などを説明した。活動例として地元企業による地域の魅力説明会開催、「まっつうら」やインターシップへの支援、協力などが話し合われた。

同校は市内唯一の高校。2017年度から市と協働で「まっつうら」を実施している。昨年4月には「普通科」を「地域社会科」に改編・改称。文部科学省の「新時代に対応した高校改革推進事業」の指定校になっている。(大島信裕)

ホームページより

【プレまつナビ日誌】 バスツアー計画を行いました

1年生は6月22日(木)6、7時間目に、7月21日(木)に実施するバスツアーのルート(訪問場所)の計画を立てました。「地域貢献・活性化班」「人口・環境問題班」「産業班」「歴史・国際文化班」の4つの班に分かれて初めての活動でした。どの班も楽しそうに、模造紙や一人一台端末タブレットを使って、興味・関心のある場所を出し合っていました。



【プレまつナビ日誌】

6月29日(水)に1年生は、7月21日(木)に行う「バスツアー」のルートを決める活動を行いました。このツアーは、1年生が「地域貢献・活性化ルート班」、「人口・環境問題ルート班」、「産業班」、「歴史・国際・文化ルート班」の4つの活動班に分かれて、生徒が考えたルートを中心に実施します。



【プレまつナビ日誌】バスツアー報告会を行いました。

9月17日（水）に1年生は7月21日（木）に「松浦市を知る」ということを目的とした「バスツアー」の報告会を行いました。

今回は、生徒が考えた4ルートに分かれての発表となりましたが、入学後初めての発表とは思えない堂々とした姿で自分の言葉でしっかり語っていました。また、この日はテレビ局の取材や広島市立美鈴が丘高校からの視察もあり、本校の活動が少しずつ全国に知られるようになってきているようです。



【プレまつナビ日誌】「志佐んぼ」の計画を行いました。

10月5日（水）に1年生プレまつナビでは、テーマ設定に向けた校内研修会を行いました。はじめに今後の活動について説明を受けたあと、10月19日（水）に行う、松浦市志佐町周辺のミニ・フィールドワーク「志佐んぼ」の計画をグループで立てました。

この活動は、地域で頑張る方々の話を聞いて、これから行う課題研究テーマ設定の参考にすることを目的としており、初めてのインタビュー調査になります。

地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



【歴史総合】外部講師による特別講座を行いました。

12月6日(火)に1年生は、歴史総合の時間に特別講師として、「鷹島海底遺跡と元寇船の発見等」に長年尽力されている國學院大學教授 池田榮史先生にご講演いただきました。鷹島海底の元寇船の引き上げの難しさや元寇船が今日まで奇跡的に残った理由などを熱心に説明していただきました。また、生徒からは、「もし、3回目の元の襲来があったならば、どう歴史は変わっていたと思いますか」「元寇船の錨の保存方法について詳しく教えてください」などの質問がありました。そこでも、とてもわかりやすく説明いただきました。



【プレまつナビ日誌】長崎大学を訪問しました。

12月16日(金)に地域科学科および商業科の1年生は、長崎大学教育学部を訪問しました。午前中は長崎大学1年生による「防災」に関するプレゼンテーション(ポスターセッション)の参観をして、午後からは、松高生が希望する各ゼミの授業に入れていただき、一日大学生を体験しました。「教育って何だろう～子どもに向き合う教育学入門～」の授業が行われたゼミに参加した生徒からは、「大学生の皆さんがとても優しく接して下さり、とても楽しかったです。」といった声が聞かれました。



*ホームページには他にも松浦高校の生徒の活動がアップされています。
「長崎県立松浦高校」で検索ください。



松高キャラクター
「まつドリー」

まつナビ・プロジェクト

検索



長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免738-1



☎0956-72-0141 (事務室)

☎0956-72-0142 (職員室)

<https://www.news.ed.jp/matsuura-h/>